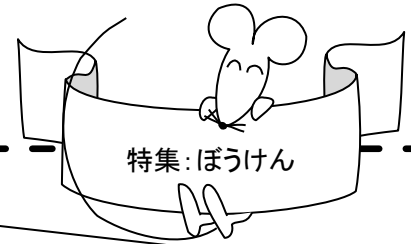


クジラをめぐる^{ぼうけん}冒険 ナゾだらけの生態から対立する^{ぼげい}捕鯨問題まで



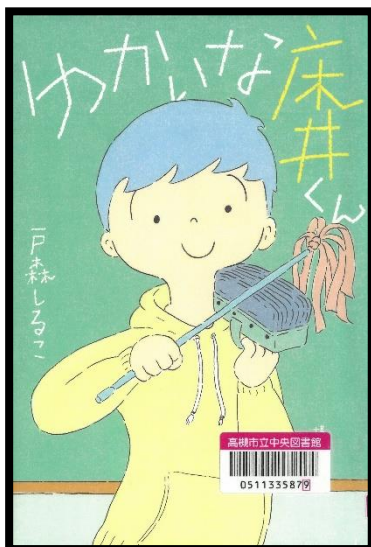
いしかわ はじめ
石川 創/著
旬報社[489]

みなさんも知っている、広大な海を泳ぐクジラですが、実はその生態はいまだ謎に包まれています。

クジラ研究者である著者が、南極海での調査で最も苦労したのは、捕鯨に反対する環境保護団体との衝突をさけることでした。なぜ捕鯨問題は解決しないのか、それを知るには人類とクジラの歴史や、それぞれの国の文化や考え方の違いを知る必要があります。

クジラを通して、世界の様々な問題に目を向けるきっかけを与えてくれる1冊です。

ゆかいな^{とこい}床井くん



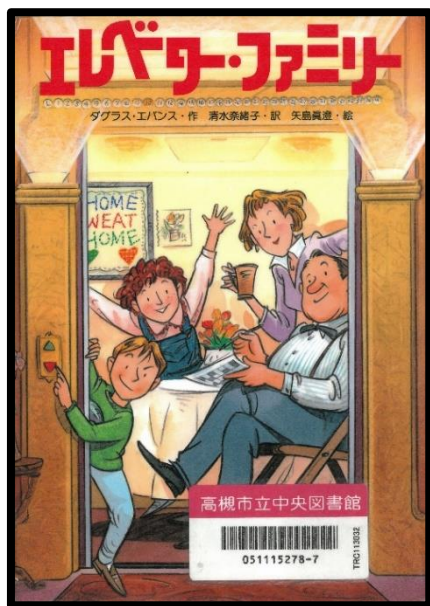
ともしり しるこ/著
はやかわ 世詩男/画
講談社[913トモ]

暦のとなりの席の床井くんは、少し変わっているけれど、明るくてよくしゃべるみんなの人気者です。

女子で一番背が高い暦は「デカ女」とからかわられていましたが、床井くんが「大きくていいなあ」としきりに言うので、バカにされなくなりました。そうした床井くんの何気ない言葉が、暦やクラスメイトの気持ちを少しずつ変えていきます。

6年2組の1年間を描いた、「こんなクラスメイトがいたらいいなあ」と思わせてくれる物語です。

エレベーター・ファミリー



ダグラス・エバンス/作

しみず なおこ
清水 奈緒子/訳

やしま ますみ
矢島 真澄/絵

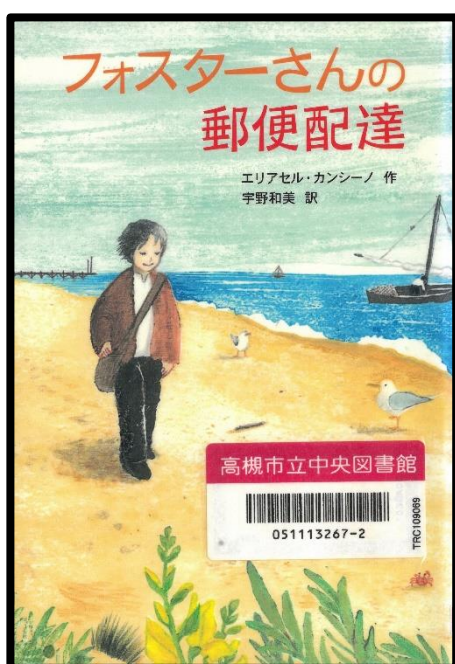
PHP研究所〔933エバ〕

旅行先のホテルが満室だったウィルソン一家は、最高の部屋を見つけました。小さな部屋には、大きな鏡、電話、床にはじゅうたんがしきつめられています。なんとそこは、エレベーターでした。

エレベーターに泊まるウィルソン一家のもとには、仕事で家族と過ごすことのできない営業マン、ファンに追いかけて逃げるロックバンド、時間に追われていそがしい老婦人、恋になやむベルボーイなどたくさんの人が訪れます。

おせっかいでちょっと変わったウィルソン一家の楽しいお話です。

フォスターさんの郵便配達



エリアセル・カンシーノ/作

うの かずみ
宇野 和美/訳

偕成社〔963カ〕

1960年代の独裁政権下のスペイン。少年ペリーコはお母さんが亡くなってから学校にも行かず、お父さんとの関係も悪くなるばかり。そんな時イギリス人のフォスターさんから郵便を届ける仕事を任されたペリーコは張り切るが、お父さんから預かった大事なお金を無くし、ついある船からお金を盗んでしまう。

一度ついた嘘がどんどん大きくなり、ペリーコは苦しむが、フォスターさんや、革職人のイスマエルらとの関わりをとおして成長していく。

海辺の村が舞台の作品の中でゴシキヒワという鳥が象徴的に描かれています。